

文京区アカデミー推進計画策定協議会

第3回 国際分科会 次第

日時：平成22年6月21日（月）18:30～20:30

於：文京シビックセンター10階 1001会議室

- 1 開会
- 2 はじめに
- 3 体系づくりに向けた項目（案）の検討
- 4 閉会

《配布資料》

【資料国際－第5号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回国際分科会【作業
結果再整理資料】

【資料国際－第6号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第2回国際分科会【作業
結果書き起こし資料】

【資料国際－第7号】体系づくりに向けた項目案

【資料国際－第8号】分野別計画骨子（案）

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回国際分科会 作業結果

1. 第1回国際分科会 開催日

日時：平成22年4月20日

午後18:30～20:30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

2. 「課題の洗い出し・分野別計画の方向性検討」作業結果

第1回国際分科会では、文京区の国際交流に関する特徴や課題、課題に対する解決の方向性について、委員の方から意見を頂き、さらに付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第1回分科会での作業結果を表にまとめたものが、下記の表1、2、3になります。

表1：「国際交流に関する特徴」について出された意見

分類見出し	委員意見
外国から来た人が多い	外国人(有識者)が多いので知的な感じがする
	外国の方が増えた
	アジア方面の方が多い
	工業都市(工場のあるところ)のように特定国民(ブラジルとか)が多いわけではない
	留学生・研究者が多い
	留学生が多い(日本語)
	留学生・外国人研究者が多い
すばらしい地域資源が多い	江戸時代からの豊富な文化財
	「歴史と文化」を活かせる生涯学習ネットワーク
	神社や寺院が多い
	大学が多い
	アジア学生文化協会、キーウィクラブが有り
	外国人にとって日本の近代を理解できそう
	学校の活用
	学問の府という感じ
学校(大学)が多いので若者が多い	
意識の高い区民が多い	高いレベルの知識をもっている
	芸術・文化を愛する人が多い
	国際交流活動と関心の高い区民が多い
	自主性が高い
	個・自分を確立している
	教育熱心な人が多い
	文学や歴史を大事にしている
その他	新しい住民が増えた
	一人世帯(若年層)が多い

表2：「国際交流に関する課題」について出された意見

分類見出し	委員意見
国際交流をする場所が少ない	地域と大学の交流が少ない 世代間の交流が必要 外国人が文化財の価値を正しく理解できる「交流の場」が求められる
国際交流する継続的な取組みが少ない	交流の機会がない 教育・学校が地域に根づいていない(分離した教育) 豊富な文化財を「発信」している伝達人が求められている 声かけの方法がわからない 小学校は学校内だけ 大学は閉鎖的 予備軍(交流したいけど踏み出せない)の取り込み不足 宿舎には立ち入れない 地味な国際交流が少ない(生活上)
周知方法・手段が不明	どうしたら住民と留学生が交流できるか…住民の高齢化
交流の窓口	交流の窓口がわからない 国際交流を取りまとめる大きな組織がない
多言語対応の店が少ない	秋葉原のような外国語対応の店が少ない
古いものに固執している	伝統を新しい歴史に変える 新しい目を向けて欲しい 新しい住民と昔から住民のつながりが少ない 住民に特徴(予備軍)がないため、国際交流にとって若干問題 個を強調しすぎる 他を受けいれない
施設の使い方	交流の場がわからない
交流・ネットワークが図れていない	人材が地域に残らない 在勤者・在学者への文京を知る機会
交流の目的は	国際交流は市民同士 市民が自主的に継続して交流すること(事務局より)

表3：「課題に対する解決への方向性」について出された意見

分類見出し	委員意見
交流の場の充実と使いやすさの促進	”顔の見える自治体”として地域文化を促進できる仕組み(人材・交流の場)が求められる。 「交流センター(仮)」を中核として「ミューズネットワーク」等の「場」を再構築する 伝達人ジュニアとして国際交流に参加できる小・中・高校生を育成する 交流の資源の活用(図書館 etc) 町会、地区対のイベント活用 自治会(町会等)の開かれた運営
参加しやすい機会づくり	交流に対して→大学生、留学生、住民によるイベント
地域の受入体制づくり	小・中学校向けに各国の紹介
交流の担い手育成	区講座を育成された人材の活用により歴史と文化を海外に伝達する 文京の大学生に教育ボランティアを 外国人の人材を発掘したい

次ページへ続く

文京区らしい交流促進	姉妹都市交流
	生活文化でのコミュニケーションができる
	区民生活レベルでの学び支援
区民・事業所 etc への理解促進教育	国際理解教室(主催を区民に募集)
	古いものを大事にしている所、神社等を開放したらどうか
	中小企業に対する英語講座・商品確立(外国人向け?)
効果的な PR 策の推進	文京区の魅力や良さを見出し伝える
	文京区の魅力の PR
	インターネット活用(地域 SNS 等含む)
	文京区のアピール→外国人に文京マップ作りに参加させたらどうか 観光資源の活用
文京区を理解しやすいツールづくり	市民の目から見た文京区の歴史を伝える
	文京文化の海外 PR
	世代に応じたプログラム(スポーツ、伝統文化)
	マップ作り(店、歴史・文化、資源)案内版 商店連合、会社等
	文京区のピーアール→大学等に協力してもらい、外国の知識人のセミナー開催をたくさんする
交流の窓口	アカデミー分科会毎に交流の窓口を作る
	継続的事業を実施するための組織づくり
	交流コーディネーターお困り(お悩み)相談
周知方法・手段が不明	フリーダイヤル、ロコミ、フリーHP、掲示板
施設の使い方	交流に対して→区の施設の利用、文京国際交流村(大学で留学生でも参加他)
	和敬塾は地の利のせいで早大の大学院生が多い。活用を!
ネットワークが図れていない	人材・施設(既存)のネットワークによる国際交流の「仕組み」づくり
	地域毎とイベントに交流の場を設ける

以上

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第2回国際分科会 作業結果

1. 第2回国際分科会 開催日

日時：平成22年5月17日（月）

午後18：30～20：30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

2. 「課題の洗い出し・分野別計画の方向性検討」作業結果

第2回国際分科会では、文京区の国際交流に関する特徴や課題について、第1回国際分科会での作業結果をもとに、さらなる検討をしていただきました。

また、課題に対する解決の方向性について委員の方から意見を頂き、付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

表1：「国際交流に関する特徴」について出された意見

分類見出し	委員意見
駐在員(区外からの通勤者含む)が多い	駐在員が多いかも。
	区に住んでいて、勤務先は区外かもしれない。
	駐在員は日本語の勉強もしており、意識も高い。
	日本の文化に興味を持っている駐在員が多いと思う。 市民団体・ボランティアが活動していただけるとよい。
研究者が多い	今後外国人研究者の宿舎が区内に出来るので、人数が増えるだろう。 和敬塾には早稲田の修士などが多い。
	区外から区に研究者として勤務している人は多い。
	留学生、研究者が多いがどういう分野に多いかわからない。
	外国人の居住年数は長くない(?)
子ども・高齢者	子ども達に体で体験する機会を。
	高齢者が外国人と交流する様々なグループがある。
	絵・音楽等を通じた交流を考える。
地場産業	地場産業 紙・印刷(江戸時代から) 凸版印刷 欧米との交流がある。
	印刷・出版社に注目するのはどうか。
	資金サポートも得られるかもしれない。
交流の目的	姉妹都市→何か具体的なものがあるとよい。
	災害があった時に寄付をするなど、互いに助け合う交流がある。
	製紙(ネピア)など具体的な産業で結びついている交流もある。
	高齢者から子どもまでが参加できるイベント(論語)もある。 例)伝通院 孔子の論語
お互いに助け合える関係	外国人が望んでいることに応えられるとよい。
	基金があるとよい(チェルノブイリ)
	学校づくりの協力があるとよい(モンゴル)
	人レベル(市民レベル)の交流。 単発であることが問題。

表2：「国際交流に関する課題」について出された意見

分類見出し	委員意見	
	課題	解決の方向性
「人の束」としての交流を促進する交流センター	人が集まる→情報が集まる。たまり場づくり	—
ミュージズネットワークの活用(現在ある仕組み)	区民が共通のコンセプトで使うようになっていない。勿体ない。	ミュージズネットワークの参加企業に、外国人が気軽に頼めるような関係になっていない。
		外国人同士、日本人との交流に貢献してくれる場所
		色々なニーズを持っている人に情報提供し、コーディネートする仕組みがうまく活用できれば。
		交流センター(仮)を中核とした情報提供
		ボランティアが企業と利用希望者をつなげれば(英語観光ボランティアなど)
		凸版印刷のホール(400人収容可) 区民が無料で聞ける音楽→大きな企業への依頼
		交流センター(仮)はネットワークの中核 ミュージズネットワークには多くの企業が参加している
人材の活用	英語観光ボランティア、インタープリター、生涯学習司等	文京のどこを見れば歴史を伝えられるかあまり知らなかった
		文化資産→見て歩き→講演会→セミナー等のたまり場
		英語観光ボランティアと一緒に歴史の探訪イベントをしている
		インタープリター、生涯学習司など
		江戸に関する史跡など、具体的な物を見るのが一番わかりやすい
		留学生が土産話しとして持ち帰れるような事には関心を持ってもらえる。(あまり有名すぎるものはダメ)
	子ども	子どもの人材を育成して区のことを伝えられるようにする。
		子ども達への教育 教育委員会と行政のもっと有機的なつながりがいる
	留学生	既存の行政からは出てこないような視点を持っている
		大学の留学生と協力してワクワク楽しい、歩いているうちに発見できるマップ作りをしたい。
		格式のある地図ではなく、楽しい地図を作って、イベントで配付するのはどうか。
		文京アカデミー学生コンテスト 学生の活用 毎年テーマを変えて実施)
		タイミングが大切。3月ではダメ。大学対向。
核となるのは日本人学生		

次ページへ続く

分類見出し	委員意見	
	課題	解決の方向性
文化の集積(にぎやか・楽しい)	秋葉原に集まる外国人をいかにして区に導くか	文京区は秋葉原とは違う。ゆったり・しっとりとした生活感があこがれの的になるかも。
		大学は多いが、区の売りの特徴は何か。
		出版社が多いのだから、外国人が楽しめるようなつながりを作れば
		中国人のビザ発行の基準緩和に対する呼び込み
国際交流の目的	文化交流から→社会・生活レベルでの交流へ 同じように楽しめる機会	WLB、女性、子ども分野など生活課題の解決を目的とした交流
		外国人を支援するイベントを実施する(バザールなど)
		貧しい人の支援ではなく、一緒に参加する仲間としてあまり難しくない取組み(バザールなど)で支援する。
		企業・寺・神社等の資源の活用 神社や寺などを場として利用できないか。(使わないのはもったいない)
外国人が安心して暮せる	日本での生活を説明するサイトなどを整理し、使ってもらうことが課題	外国人が表現できる場づくり、サポート体制
		外国人が利用しやすい施設とサポート体制
		登録証を取りに来たときに、いかに情報提供するか
外国人が地域社会に参画する	色々なことをやってみたい。国・国の文化を表現したいと思う外国人を行政として支援できれば。	例)タイフェスタ(2010年5月16日に代々木公園で開催)
		外国人が表現できる場を整備し、支援する。
		表現したい人、支援する人は若者が多い。

以上

体系づくりに向けた項目（案）

(視点)	分野別の目標	基本的な方向
交流のきっかけを持つ、互いの文化について学ぶ	1 国際理解の向上	(1) 国際理解の推進
		(2) 多様な文化を学べる機会の充実
異なる文化的背景を持つ区民同士が互いに触れ合い、理解し合う	2 国際交流の活性化	(1) 交流拠点の充実
		(2) 交流の機会の拡充
		(3) 交流を支える人材の育成
		(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
外国人が安心して暮らせ、ともに地域に参画する	3 共生社会の実現	(1) 外国人の暮らしの支援
		(2) 地域活動への参加促進

※太い黒線で囲んだ部分がる体系部分です。

分野別計画骨子（案）

I 国際交流

1 国際理解の向上

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 区では、全小中学校の全学年にAET（英語授業助手）を派遣し、児童・生徒を対象とした国際理解教育を推進しています。
- ・ 区民の国際理解を深めるため、日本語ボランティア講座、英語観光ボランティア育成講座、区内の大学連携による青少年の外国語講座、高校生の英語講座など、様々な学習機会を提供しています。

◎ 調査結果より

- ・ 調査結果をみると、これまでに外国へ行ったことが「ある」と回答した区民の割合は78.7%で、回答者の大半は海外経験があることがわかります。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 小・中学校や大学と地域との連携が少なく、学校での教育が地域に根づいていないのではという意見がありました。
- ・ 区には大学に勤務する外国人研究者や留学生、企業の駐在員等が多く、高いレベルの知識を持った人材が豊富であるという指摘がありました。
- ・ 区内にある文化財などの価値や歴史的背景、文京区のゆったりとした生活環境などの良さを伝えたいという意見がありました。

◎現状のまとめ

- ・ 小・中学校での国際理解教育の充実とともに、各種の講座のさらなる充実を通じて、区民全体を対象として、外国人を受け入れていく意識の醸成が求められます。

◆ 課題

- ① 国際理解を目的とした各種の講座は、事業の対象とする区民（生徒・学生・社会人等）やテーマ、目標を明確にし、効果的に実施していくことが必要です。
- ② 区内の大学等に勤務する外国人研究者等が行う講座の充実など、区内の大学等と協働し、国際理解に関する学びの質を今後とも高めていくことが必要です。
- ③ 区内にある歴史・文化資源などの地域資源について、区民の目からみた地域資源の価値や魅力を外国人に伝えていく仕組みが必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行~5行程度)。

(1) 国際理解の推進

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 外国語や文化などに関心を持ち、外国人を受け入れる意識を区民が共有できるよう、国際理解教育を充実させることが求められます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(2) 多様な文化を学べる機会の充実

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区内の大学等に勤務する外国人研究者等に学ぶ講座の充実など、国際理解教育の質を高めていくことが求められます。
- ・ 企業の駐在員など、日本の文化や歴史を学びたいと考えている外国人に対し、区民の視点からみた文化資源について伝えていくことが求められます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

2 国際交流の活性化

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 区では、区民と外国人との交流を深め、相互理解を進めることを目的として、英語観光ガイドの育成を目的とする「英語観光ボランティア育成講座」、市民レベルの文化交流を目的とする「国際交流フェスタ」の開催、外国人の観光案内を目的とする「英語ガイドツアー」などの国際交流事業を実施しています。
- ・ 区とカイザースラウテルン市は姉妹都市提携を結び、相互交流を進めています。ホームステイ生徒の交換を行い、市民レベルでの交流、市民同士の友好関係を深めることを目指しています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 交流をしたくても拠点となる場所が少ないという指摘がありました。
- ・ 国際交流に関する情報の窓口がなく、どのような活動があるのかわかりにくいという意見がありました。
- ・ 国際交流に対して、具体的な方法が分からないという意見がありました
- ・ 国際交流に関して、小・中学校や大学との連携があまり取れていないという指摘がありました。
- ・ 国際交流に関する事業は単年度で終了することが多く、継続が求められるという意見がありました。
- ・ 留学生は多いが、数年間で自国に帰ってしまうため、継続して区に留まる人材が少なく、交流が深まらないという指摘がありました。
- ・ 今後の国際交流では、ワーク・ライフ・バランスの実現、子育て支援などの課題をともに考え、お互いの視点を学び合いながら解決していくことが必要だという意見がありました。
- ・ 区民と外国人が同じように楽しみながら、地域の活動ができる機会を充実させたいという意見がありました。

◎現状のまとめ

- ・ 国際交流の活動に利用できる施設や場所が少ないため、交流の活性化のためには人が気軽に集まれる場所が求められます。
- ・ 区内にどのような活動があるのか、またどのように参加したらよいのか分かりにくく、具体的な活動に結びつけにくいという現状があります。このため活動に関する情報を一元的に整理する窓口が求められます。
- ・ 区内の学校や大学等と地域との連携が少ないという指摘があります。これらの地域資源の連携を進め、国際交流をする機会を増やしていくことが求められます。
- ・ お互いの文化等を知る交流から、さらに進み、ともに様々な生活課題の解決に取り組む交流など、区民と外国人と一緒に地域活動の担い手となっていくことが求められます。

◆ 課題

- ① 区民と外国人とがともに気軽に利用でき、人が集まれる交流の拠点が求められます。既存の施設を国際交流の場として活用することが必要です。
- ② 国際交流をしたいと考えているが、方法がわからないという区民や外国人のために、交流のきっかけとなる情報、機会を提供していくことが必要です。
- ③ 国際交流の支援団体、ボランティア、大学、企業等のネットワークづくりを進め、区民が主体となった国際交流をさらに活性化することが必要です。
- ④ 国際交流の事業を継続できる支援の仕組みが必要です。
- ⑤ 国際交流の支援団体などの人材を、国際交流を中心的に進める人材として支援し、継続して活躍できる機会を作っていくことが必要です。
- ⑥ 姉妹都市交流の歴史は21年になるものの、区民全般に浸透しているといえない面があり、事業の内容や、交流の成果を区民に広く知らせる工夫が必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行～5行程度)。

(1) 交流拠点の整備

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 「交流センター(仮)」を区民も外国人も気軽に集まれる場所、国際交流の核となる場所として、活性化を図る必要があります。
- ・ 企業の保有する施設等を国際交流の場所として利用させてもらうなど、「ミューズネットワーク」に参加している企業との協働をさらに進めることが考えられます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(2) 交流の機会の拡充

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 国際交流の支援団体、ボランティア、大学、企業等のネットワークづくりで、交流する機会を充実させていくことが必要です。
- ・ 子どもから高齢者までが、世代を通じて国際交流できる機会を作ることが求められます。
- ・ 区民が行う国際交流が継続できるよう、行政側も区民の取組みを支援していくことが求められます。
- ・ 留学生との交流を活性化するために、「文京アカデミー学生コンテスト」など、テーマを決めて学生の参加を募るイベントの開催が考えられます。また、留学生の視点からみた文京区の地図づくりなども考えられます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(3) 交流を支える人材の育成

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 今後の国際交流は自治体だけではなく、市民や民間部門が中心となっていくことが求められます。
- ・ 区民と外国人がともに地域活動に参加するため、中心となっていく日本人の人材が必要です。
- ・ 区で国際交流の講座を受けた人材を、区の歴史や文化を外国人に伝えられる人材として活用することが考えられます。
- ・ 教育委員会との連携をさらに深め、伝達人ジュニアとして国際交流に参加できる小・中・高校生を育成することが求められます。
- ・ 留学生や、大学・企業に勤務する研究者など、高い知識を持った人材との協働により、国際交流の質を深めていくことが求められます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化

◎ 分科会での委員意見より

- ・ —

※分科会では姉妹都市交流等について具体的な意見がまだ出ていません。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

1 共生社会の実現

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 区では、日本での生活を支援するために、区内の外国人登録者に、外国語版生活便利帳の発行（日本語・英語・ハングル・中国語）を配付しています。

◎ 調査結果より

- ・ 調査結果をみると、地域の外国人と「付き合いはない」とする区民の割合が50.4%で最も高くなっています。一方「親しく付き合っている」は5.6%となっています。
- ・ 「親しくつきあっている」を含め、日常生活において、多少なりとも外国人との交流がある区民の割合は29.8%となっています。
- ・ 地域に外国人が住むことについては、「異文化交流が活発になる」が23.9%、「区民や子どもたちの国際感覚の高揚につながる」が17.7%であり、この2つを合わせた肯定的な回答は41.6%となっています。特に日常生活において外国人との交流がある人の方が、外国人が住むことについて肯定的という結果が見られます。
- ・ 外国人とともに暮らすために必要な取り組みについては、「日本人と外国人の懇談会や交流の場を設ける」が44.3%と最も高く、次いで、「外国人向けの日本の文化や生活習慣の講座を開催する」が44.1%、「外国人への公的な相談体制や生活支援を充実する」が27.1%となっています。
- ・ 地域に外国人観光客が訪れることについては、「異文化交流が活発になる」が39.2%、「区民や子どもたちの国際感覚の高揚につながる」が18.1%であり、合わせると回答者の57.3%が積極的な捉え方をしています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区内には多言語対応がされた標識や、店舗が少ないという指摘がありました。

◎ 現況のまとめ

- ・ 外国人が安心して訪れ、安心して住める地域づくりのため、多言語での情報提供や相談窓口、困った時の支援体制等を充実することが求められます。
- ・ 外国人がお客さんとしてではなく、住民の一員として地域活動に参画できるよう、自治会などの地域での団体に外国人を受け入れていく意識の醸成や仕組みが求められます。

◆ 課題

- ① 外国人が大きな困難を感じずに日常生活をおくれるよう、各種標識や、店舗などでの多言語での対応を進めることが必要です。
- ② 外国人が安心して地域で暮らせるよう、公共サービスの種類や、日常生活の困りごとについて気軽に相談できる窓口や支援体制が必要です。
- ③ さらに病気や怪我をした時、災害時等に、多言語での支援が必要です。
- ④ 区内の学校に通う児童・生徒等への日本語指導の充実が必要です。

- ⑤ 区民と交流したい、表現活動を行いたいと考えている外国人の取組みを支援し、区民とともに楽しめる機会や地域活動に参加できる仕組みが必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行～5行程度)。

(1) 外国人の暮らしの支援

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 国際交流に関する情報を取りまとめた情報の窓口が求められます。日本での生活に必要な注意事項等を、分かりやすく説明するサイトなどを作り、実際に活用してもらえようとする必要があります。
- ・ 標識や看板、店舗などの多言語化をさらに推進していく必要があります。
- ・ 「交流センター(仮)」を人や情報の集まる場所とし、様々な情報を提供する機能を高めていくことが求められます。
- ・ 区内で学校に通う児童・生徒などへの日本語指導などの支援が必要です。
- ・ 防災訓練等を多言語で行う、災害時に多言語の誘導をするなど、安心して生活するための支援が求められます。
- ・ 住宅の借り方、子育て支援など、区で生活する上で求められる様々なニーズに対する適切な情報を提供し、困りごとの解決支援ができる体制づくりが求められます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(4) 地域活動への参加の充実

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 自治会や地域でのイベントに外国人が参加しやすい運営を行うことが求められます。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

【事業例】

1 国際理解の向上



-
-
-